



(組合員の購読料は組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5 交通ビル  
国鉄労組東日本本部  
発行責任者 佐藤勝雄  
編集責任者 伊藤隆夫

No.625 定価 20円

2005年  
4月5日

もう一人の仲間を国労に  
**国労加入を**  
大胆に訴えよう

# 各職協が定期委員会開催!

JR東日本会社は、グループの中期経営構想「ニューフロンティア二」の最終年度を待たずに「二〇〇五年度までの数値目標についても、概ね達成できる見通し」(JRひがし号外)として今年一月、新たな中期経営構想「ニューフロンティア二〇〇八 新たな創造と発展」を策定し発表しました。同時に、貨物会社においても「ニューズストリーム二〇〇七」を策定し発表しました。言つまでも無くこの新構想は、今までの構想を通過点として、更なるコストダウンの徹底、「効率化」などを推し進めるといふことです。この間、国労東日本本部は、この「ニューフロンティア二」計画に対し、労働組合の立場から「検証と提言」をまとめ、「仕事総点検運動」と一体のものとして運動を進めてきました。今号は、各職協委員会報告号としました。各職場から引き続き「仕事総点検運動」を取り組みましょう。

## 工作協議会第一七回定期委員会

去る三月十二、十三日、仙台において第一七回東日本工作協議会定期委員会を開催しました。あわせて、第四五回工場・車両所代表者会議も行い、一年間の闘いの総括と今後の運動の方針を確立しました。

委員会は、下平副議長(長野)の司会で始まり、委員会議長には二瓶委員(郡山)を選出しました。小池議長が協議会を代表して、国鉄闘争の現状、車両メンテ第三期の状況と検証にむけて、工作中央連絡会の取り扱いと東日本工作の交流に向けて、工作労働者の組織強化・拡大について、など、問題提起も含め挨拶をしました。

その後、多忙のなか今委員会に駆けつけた三名の来賓(東日本本部・藤野副委員長、東日本本部運輸協議会・武笠事務局長、仙台地本・橋本業務部長)から挨拶をいただきました。経過報告ならびに運動方針(案)を一括して山内事務長から行い、途中、委員会を休会にして、第四五回各工場・車両所代表者会議に切り替え、車両メンテ三期の実態、一七年度工場業務量提案の内容、工作中央連絡会の会費徴収、その他特徴的な事象「などを中心に報告を行い、この一年間の各工場・車両所の闘いについて全体で共通認識として確認し合いました。

報告後、委員会を再開し、まとめに立った山内事務長は、「車両メンテ三期の検証と見直し交渉に向けた強化、各工場・車両所の情報交流の共有化、会社施策による効率化・合理化の狙いと闘いの強化、工作労働者の組織強化・拡大」などについて集約しました。まとめの最後に工作中央連絡会についてふれ、「当時中央執行委員であった大西氏も現在退任し西日本本部にいます。本部業務と相談しながら今後の対応を考えていきたい。」ことを報告し、全員の拍手で経過ならびに運動方針を採択しました。

最後に、小池議長の音頭で「団結ガンバロー三唱」し散会しました。一三日は、〇五春闘の仙台総行動が行われることから小池議長と山内前事務長が激励に参加しました。委員会成功に向けて会場の手配や諸準備などで仙台地本ならびに新幹線総合車両所支部の皆さんに大変お世話頂いたことをこの場を借りてお礼を申し上げます。

第四五回各工場・車両所代表者会議の報告要旨  
秋田総合車両所・ユニオンの分裂以降の脱退者は出ていない。現在の工場は、技術レベルの低下による車両故障が増え続けている、国労とユニオンの排除で仕事が回っていないのが実態である。

新幹線総合車両所・ワーク八〇分から七〇分にまた、一日五ワークから六ワークにされ作業時間の短縮で効率化を求められている。新幹線の周期延伸が平成一七年一〇月からされようとしている。

郡山総合車両所・貨物分会で三名の脱退者が出てしまった。会社の揺さぶりの中で職場が廃止されるとのうわさがあり、ついには脱退となってしまった。

新津車両製作所・現在、東海道の車両製作を行っているが、東急から買った図面がでたらめなために作業が進まず、一週間で一五時間の残業や一日三時間から三時間半の残業も当たり前となっている。新津の年齢構成は、四〇歳台以上が三〇〇人を超え、逆に二〇から三〇歳台で六〇人程度となっている。

長野総合車両所・長野の場合、他工場とは違い年度の実施計画が明らかにされず、職場で資料と説明がされている。昨年、車両メンテ三期の支社提案時に指摘したが、長野の場合は特段事前に行わなくても工事がうまく回っているので必要がないとの回答。また、本線上での車両故障を起こした場合には、現場で処分が出されている。

大宮総合車両所・車両メンテ三期では、いまだ具体的提案が支社からされていない。また、貨物の車両所では、年度末効率化事業で塗装とパンタの九名分の外注化を提案し、そのうち、塗装作業を場内出向という形で総額人件費の削減をしようとしている。

東京総合車両所・車両メンテ三期において、山手電車区との統合、さらにSVCの廃止に伴って国労組織が増えた。メンテ三期の問題点が職場の中で山積しているため、見直し交渉に向け都内支部と調整を行っている。  
鎌倉総合車両所・車両メン



工作労働者の組織強化・拡大など問題提起する小池議長

三期に伴う工場機能廃止の解明交渉を行い、その中で、三回位での人事異動がされることが明らかになってきている。  
**貨物川崎車両所**・年度末効率化事業で関東で「二五・川崎で5」となっている。昨年と合わせて「一四」このままでは仕事が回らない。

工作協議会事務長

小野 浩美

議長	小池 敏哉	(東京)	大井工場
副議長	下平 文雄	(長野)	長野工場
"	進藤 修	(秋田)	土崎工場
事務長	小野 浩美	(東京)	大宮工場

### 自動車協議会第一七回定期委員会

第一七回自動車協議会定期委員会及び全分会長会議は、三月八〜九日、福島県相馬市岩子迫「白山荘」に於て、JRバス東北・JRバス関東から三五名、また、東日本本部から佐藤委員長も参加される中で開催されました。

委員会は唐沢(富)副議長の司会で開会され、委員会の成立を全体で確認するとともに、八百井議長から「JRバス会社は、徹底した効率化と人件費の抑制で職場では事故の多発と健康が脅かされた実態となっている。飲酒事件以来、多くの改善命令と行政指導を受け、就業親割を一方的に改悪した労務管理を押し付けている。また、『事業の選択と集中』を掲げ、収益の低い線を休止させ、収益性の高い高速線へのシフトへ積極的に進め、子会社への業務委託を拡大させ、職場では労働強化と無権利状態となっています。労基法・労安法・就業規則を守らせ、年休の完全取得、安全輸送を確保し、明るく安心して働ける職場、労働条件の改善、組織拡大を図らなければならない。」

同時に、関東では八月に開業する秋葉原〜つくば線〜つくばエクスプレス、東北においても、支店・営業所の統廃合、路線の休廃止で雇用不安を社員におおっている。引き続き、東日本本部と連係を図り諸問題の解決を図るべく闘いを進め、各職場の問題点等を出し合い方針が確立することを期待します」と挨拶を受けました。

また、東日本本部の佐藤委員長から「中労委で進められている昇進差別事件の和解に向けては、該当する全組合員が昇進試験を受けて合格率を上げさせ、仕事総点検運動を通して、正常な労使関係を確立し、JR不採用問題の早期解決を図らなければならない」と情勢報告を受け、本部全国自動車協議会・磯部議長から連帯挨拶を受けました。

大倉事務局長から方針の提起を行い、各委員、分会代表者から職場の実態や問題点の報告を頂き、報告された職場実態は、「慢性的な要員不足で年休が取れない」「AB勤務後に一般線の乗務が付き、拘束時間が長い」「勤務変更を強引に押し付ける」「勤務の流れに乗務員全員が夜行便に乗務出来ない」、勤務の平均化ではなく契約社員に影響が出ている、「退職者が出て転勤者が戻っても慢性的な要員不足である」「他労組の分会長が出勤時にアルコール検査で発覚し乗務停止で転勤を強要されている。」「休日労働が多い」「就業規則の但し書きの拘束時間一四時間や



結束を固めあった委員会終了後の記念写真



一五時間を取り入れている」「臨時宿泊が多く食事代の負担増や在宅休息時間がない」「他労組の組合員は無関心が多く諦めか職場が暗い」等の実態報告を受け、出された多くの問題点について全体で質疑討論を行いました。

今、各職場ではストレスや疲労による不祥事が頻繁に発生しています。私たちは、安心して明るく働ける職場・労働条件を作るために労基法・労安法・改善基準、基発三三九号等を学習し、団体交渉の活用を図り、ゆとりある勤務体系を確立するため職場から運動を作り上げ、定年まで安心して働ける職場、労働条件を作る運動方針を全体で確認し、力強い団結三唱で閉会しました。

自動車協議会議長

八百井 登士

議長	八百井登士	(東京)	東京営業センター
副議長	佐藤 浩一	(盛岡)	盛岡支店
"	唐澤 富雄	(東京)	長野原支店
事務長	大倉 満	(仙台)	原ノ町駅

### 電気協議会第一七回定期委員会

〇五年一月二九・三〇日の第一七回電気協議会定期委員会を報告します。委員会議事は東京地方本部電気協議会中沢議長によって進められました。委員会は一日目で終了して、二日目は各分科会からの報告を受けて、意見交換をし、認識を深めました。委員会に東海本部電気協議会議長佐々木さんが出席してくれ、来賓として挨拶を受けました。東日本本部も隣接電気協議会へ挨拶・交流をして行けるように努力したいと思えます。

東日本本部より山根執行委員から挨拶と問題提起をして頂きました。特に和解に対する考え方の提起については、誰もが予想していなかった提起のために意見が出されませんでした。各地方での討論と東日本本部拡大委員会で討論をおねがいしました。委員会の議論は、昨年の委員会と同様にメンテナンス合理化の実態について報告と討論がされました。実態は、メンテナンスセンター単位で「違いがある」という報告が出てきていますので、メモ化をして分会で話し合っして申し入れをする。それを受けて地方本部電気協議会が基本組織と連絡を取り合っして団体交渉まで押し上げるという運動をつくっていくことを確認しました。

新EWSについて、専門チームを作っして作成しないと本当に「基礎データが完成しない」のではないか。会社(支社)が本気になっていると感じ取れない。前回の関係で少しも懲りていないのか。反省をして今回はいいチャンスだと思っ。その設備が何処にあるのか知らない。理解もしないでただただ入力している。

技術断層・継承についての意見・報告問題提起とかなり厳しく、強い危機意識を持つた発言が多く出ました。併せて、今回の和解協議になっっている昇進による「国労への差別」扱いの結果、業務を熟知していない「若い人が主任になる」という職制構成と技術力が逆転しているという事態に陥っることに對する怒りが出ました。現在の設備を具体的に保全できる次の担い手を育成しないと、JRの電気設備保全業務は危ないという認識で一致しました。特に信号認定制度の発足による「A認定者」の属人に対する「能力問題」も出されるにいたりました。地方の現状は「A」には任せられないので、出来る人がチェックを



安心して働き続けられる職場作りを意志統一した運協定期委員会

「国労の検証と提言」によって、国労の旗幟が鮮明になり、国労が大量運動を組織し職場で多数派をめざすことができる。そういう確信を持たなければならぬ」と述べました。講演後に質疑を受け、各運協機関で「検証と提言」の学習会等を取り組むことを確認して終了しました。

第一七回定期委員会は赤沼副議長の下で始まり、座長には東京運協事務局長の魚谷委員を選出して進

かけている。国労組合員がやっている。職名や給与号俸だけがなくて「責任を持たない」それで済まされるような職場風土に問題があるのでないか。技術職場であってはならない風土が出来ている。色々意見はあると思うが国労としては責任を取らせるようにすべきだ。というかなり強い意見が出されました。



委員会議長を務めた中沢委員（東京）

チェック表作成も、線路閉鎖手続き書作成も、何かあったら困るのでチェックをかけている。自分たちが作成している。しかし、何かあったら多分私達に処分が出されるのではないかと思っっている。覚悟もしている。という悲痛な声さえ出ました。

出向も相変わらず国労を最優先にだしてきている。組織比率から見ても余りにも差別出向が酷い。現場長が「同じ色は同じ色で」といつてきたという報告は、その後の懇親会でも怒りの議論となりました。限られた時間ではありましたが、委員会を含めた二日間の日程でかなり赤裸々な意見交換が出来ました。この職場からの意見・実態にこだわりながら電気協議会は国労運動の更なる強化・組織拡大に向けて頑張ることを確認できた委員会でした。

電気協議会議長 齊藤 照明

- 議長 齊藤 照明（東京） 東京変電技術センター
- 副議長 伊藤 政利（秋田） 秋田信通技術センター
- 岸 三男（高崎） 桐生電力メンテナンスセンター
- 北島 利則（千葉） 新小岩メンテナンスセンター
- 榎戸 輝（東京） 出向（東京貨物会社）
- 高橋 広（東京） 大船メンテナンスセンター

### 運輸協議会第一七回定期委員会

国労東日本本部運輸協議会は第一七回定期委員会を二月二五日、東京弥生会館で開催した。前日二四日は佐藤委員長を講師に迎え、「JR東日本「ニューフロンティア」計画」への「国労の検証と提言」の学習討論会を行いました。前段に藤野副委員長からは、定期委員会を前にして「運協的な課題について問題提起」を受けました。佐藤委員長は「国労の検証と提言」の作成理由を「JR東日本会社にあつて国労が主導権を取るには、いま何が必要なのかという観点が一番大きなポイントであった。社員の誇りとするJR東日本会社のあるべき姿を描きだしながら、実現すべき課題を組織の内外に明らかにしていくことであつた」と述べ、そして

められました。米山議長は挨拶で「ニューフロンティア二〇〇八では駅に大合理化が集中してくる。安心して働き続けられる職場にするため、一つひとつの問題に取り組みながら組織拡大につなげていこう」と述べました。伊藤書記長が出席、当面する情勢と課題について提起がされ、特に「ニューフロンティア二〇〇八」における課題、昇進差別事件和解の取り組み、二〇〇五春闘、不採用事件等での方針を述べ、「仕事総点検運動」を職場から進め国労と他労組との違いを示し、組織拡大を積極的に進めていこうと決意が明らかにされた。その後、山口事務局長が活動方針を提案し、一二人から質疑がありました。発言の要旨は次のとおりである。

駅における効率化施策等について、八名が発言。特に、自動券売機MV30導入が全社的に広がり、出札窓口の削減による要員減、窓口の混雑、窓口時間の短縮等々により、旅客サービスの低下と駅勤務体制の変更等の報告。東京からはMV30導入後に閉じられていた窓口が九駅で復活し一名の要員がバツクした報告。また、Suica拡大や東京近郊区間拡大による営業制度の矛盾によるトラブル問題。自動改札機導入による要員削減。駅業務委託の拡大。Suicaでのグリーン券の処理が仙台で行われている報告。大雪による雪害と要員問題。サービス介助士を活用できない駅体制の報告。

車掌職場からは、普通列車グリーン車導入における湘南新宿ライン増発による東海道・横須賀線の混雑問題。来春春導入される東海道・横須賀・総武快速線での車掌削減対策。中央線乗務員基地の再編や東北縦貫線による車掌区の統廃合など不安解消への取り組みを。アルコール検知器の取扱が区所違う、重い処分や一勤務不参は過酷だ、暦日の不参へ。これらの問題で本社交渉の強化を。水戸から、常磐線での一五秒停車の問題。千葉から、車掌のサービス労働で過不足金の扱いでバックペイの報告。

その他の問題として、盛岡から、テレホンセンターへ出向して三年、復帰の発令を守らせる闘いと巧く対応できなくてうつ病になり、精神疾患を蔓延させるテレセへの対策を求める発言。ベンディング廃止から駅へ配属された報告がされました。

本部答弁は、テレセ出向問題は個別に進め、精神疾患などメタルヘルスについては支社ごとに判断している。一五秒停車や生休の突発休は支社で粘り強く交渉を。普通列車グリーン車・乗務員基地再編成問題は車掌分科と連携して進める。アルコール検知器問題は調査整理し扱いを決めていきたい。大雪については指令と支社の対応のあり方を地方でたたくしてほしい。安全安定輸送の問題は根本的なことであり強めていきたい。出された意見等を運協の要求書で整理し詰めていきたい。

米山議長集約、「営業関係の申し入れ案をもう少し肉付け交渉していく。MF二〇〇八には職場から粘り強く闘っていきたい」と述べました。その後、役員改選を行い、新しい五味議長の音頭で団結がなばろうと力強く行い委員会を終了しました。

前運輸協議会事務局長 山口 里美

議長	五味 照善	(東京)	東十条駅
副議長	宮崎 孝	(盛岡)	青森運輸区
"	山本 文英	(秋田)	横手駅
"	菅野 勉	(仙台)	白石駅
"	佐藤 憲吉	(新潟)	越後湯沢駅
"	岩井 義則	(高崎)	北藤岡駅
"	赤沼 廣行	(水戸)	水戸運輸区
"	石井 武義	(千葉)	館山駅
"	今福 守男	(長野)	塩尻駅
"	山本 恭志	(東京)	目白駅
事務局長	福士 智夫	(東京)	松戸車掌区
駅分科長	鹿島 信幸	(東京)	飯田橋駅
車掌分科長	魚谷 孝	(東京)	東京車掌区
総経分科長	加藤 誠二	(東京)	東京資材センター

# 工務協議会第一六回定期委員会

昨年一月二七日、二八日にかけ、東日本工務協第一六回定期委員会が網代の地で開催された。委員会は青柳副議長の司会で始まり、大会議長には山口委員を選出、その後、東日本本部伊藤書記長より挨拶を受けた。書記長から、新潟中越地震に対する機関としての取り組みについて、国鉄闘争の現状とこれからの集重点、闘いの根幹となる組織強化・拡大の取り組みを強めあつた必要性が強調された。大津工務協議会議長は今委員会の任務として、「メンテナンステ体制再構築三年を迎え、出向者の復帰と会社の一方的延長問題を含め、各地方の実態・闘いを報告し学び会う事と、全国連絡会会費の討論の組織化、又、申三五号の早期開催に努力しあうこと、そして国労が国労として存在する以上、その意味は会社の做りに対し撤回・修正を勝ち取ることだ。その為精一杯がんばろう」と問題提起を含め挨拶し、大津事務局長より経過報告と活動方針を提案の後、各地方からの報告、討論を受けた。

「出向一四四名中、復帰は三〇名、機械Gを中心に戻つても仕事がないこと不安から、延長の希望もあつた。業務区分が混乱しており、本部・本社間で再整理が必要だ」「千葉」「メンテナンステ移行後、LEDをぶつけるなど事故が多発。出向者の中で夜勤の多い人では五連夜の作業もあり、一方保技セではタイタンパーの直轄化も行われている」「盛岡」「出向復帰者の数とプロパー育成はほぼ一致しているが、プロパーが業務を理解するまで出向者の負担は多い。新たな出向発令については組合間差別が見られる」「仙台」「第一建設では未だ軍手・作業靴も自己負担であり、勤務査定もJRに報告となつてきている」「長野」「面談では三年で帰れると思つたら大間違いだ！等の半分桐喝含めた事象もあつた」「新潟」「出向復帰とJRの労働条件改善に向けた支社長要請はがき、技セ長に要請文を取り組んだ。会社の一方的都合で残されている仲間の労働条件改善も重要な課題だ」「東京」「運転適性検査の期限超過に対する緊急申し入れを行った。職場では専門特化など程遠い現実だ」「高崎」「余力Gから直接出向へ出され、会社のやり方に怒りを覚える。支社を超え出向も行われ、問題が多い」「水戸」「工事発注しても現場と合わず、監督委託業務をJR Eに行わせようとしている」「(建設)等二三名から各地方での取り組みと実態が報告された。

その後、「新潟中越地震の教訓を生かした耐震補強含めた抜本的対策と、要員及び保守体制の確立・会社の定めた業務が出来うる体制作りを求めていく事と、メンテナンステ移行後、《事故の多発と技術力の低下》などが深刻な問題となつている状況の中、各地方の出向復帰に際しても組合員の不安を払拭する取り組みの強化と、職場の問題点を把握し、要求化から具体的改善に結びつけよう」と議長集約され全体で承認の後、役員改選で藤澤新議長を選出し、改めて全地方・職場からの一層の奮闘を決意し、散会した。

工務協議会事務局長 大津 幸夫

- |     |           |             |
|-----|-----------|-------------|
| 議長  | 藤澤 安男(長野) | 松本保線技術センター  |
| 副議長 | 若松 正純(盛岡) | 出向・仙建工業     |
| "   | 久米 竜一(秋田) | 出向・ユニオン建設   |
| "   | 遊佐 貞明(仙台) | 出向・交通建設     |
| "   | 江端 隆男(新潟) | 出向・鉄建建設     |
| "   | 湯浅 米治(高崎) | 高崎保線技術センター  |
| "   | 渡辺 隆義(水戸) | 水戸保線技術センター  |
| "   | 吉野 隆(千葉)  | 西船橋保線技術センター |
| "   | 町田 建三(東京) | 関東保全技術センター  |
| "   | 高橋 吉一(東京) | 小田原保線技術センター |
| "   | 波能 秀幸(東京) | 東京工務事務所     |
| "   | 桜井 正弘(長野) | 飯山線営業所工務室   |

- |         |           |               |
|---------|-----------|---------------|
| 事務局長    | 大津 幸夫(東京) | 金町保線技術センター    |
| 事務次長    | 小出 一彦(千葉) | 千葉保線技術センター    |
| 保線分科長   | 本間 克典(東京) | 出向・東鉄工業       |
| 保線機械分科長 | 島崎 敏文(東京) | 出向・東鉄工業       |
| 建築分科長   | 若林 春三(東京) | 新宿建築技術センター    |
| 機械分科長   | 坂井田隆志(東京) | 新宿機械技術センター    |
| 土木分科長   | 大山 正明(東京) | 東京土木技術センター    |
| 建設分科長   | 日野 吉政(仙台) | 東北工務事務所       |
| 新幹線分科長  | 真屋 春人(仙台) | 郡山新幹線保線技術センター |
| 事務分科長   | 須藤 寿久(千葉) | 成田保線技術センター    |

# 運転協議会第一六回定期委員会

運転協議会は二月一四日、第一六回定期委員会を開催しました。

東日本本部から伊藤書記長の報告、工作協議会から小池議長の来賓あいさつを受け、車両メンテナンステ三期の実施状況、ニューフロンティア二〇〇八等を軸に議論しましたが、各地方から、昇進和解についてより詳しく、積極的に明らかにし、取り組んでもらいたい。・遠距離通勤、転勤の解消に力を注いでもらいたい等の要望が出されました。



車両メンテ三期の検証等議論を深めた運転協議会定期委員会

また、・要員不足がひどく一四八名の職場で年休失効三二八日、買い上げ四二七という状態(貨物、東京)、・ワンマン区間で運転士が雪かきをしながら運行し、体調を悪くすると言ふ事態(長野)、・運転士、車掌への水分補給に対する規制は明らかに行き過ぎて指令に許可を得て飲んだ人がいるくらいだ(水戸、その他)、・豪雪により雪害が多発している。車両事故が増えている、同一呼称が多発し車両運用が回らず、秋田から車両を借りて年末輸送を乗り切った。(盛岡)等の問題も出されました。

他に、東北・関東の貨物運転の第三回交流会や地方独自の客貨交流、東京八王子支社内の運転、車掌職場の大きな統合計画などが報告されました。

東日本本部からは書記長が質問、意見に答えただけ、藤澤副委員長からも何点かアドバイスを受けました。最後に、メンテナンステの検証、運輸区化構想への対策、要求を深める。ワンマン運転における問題をピックアップ、グループ会社社案での若年出向の検証、水分補給は現実に見合った解決を求める等の議長集約をし、終了しました。なお、役員体制は全員再任されました。

運転協議会議長 茂木 博

- |      |           |             |
|------|-----------|-------------|
| 議長   | 茂木 博(東京)  | 田町運転区       |
| 副議長  | 盛田 憲至(盛岡) | 青森車両センター    |
| "    | 進藤 雄一(秋田) | 秋田車両センター    |
| "    | 田中 長一(仙台) | 小牛田運転区      |
| "    | 渡辺 克博(新潟) | 新潟新幹線車両センター |
| "    | 金子 洋(高崎)  | 高崎車両センター    |
| "    | 竹村 茂(水戸)  | 水戸運輸区       |
| "    | 宇井 太(千葉)  | 幕張車両センター    |
| "    | 緑川 浩(東京)  | 三鷹電車区       |
| "    | 坂本 保(長野)  | 松本車両センター    |
| 事務局長 | 武笠 秀也(東京) | 田町車両センター    |